

いっぱい勉強して、いっぱい悩んでくれたら

悩んだ方が面白いかもしれないですね

語り手 本郷 真功（高校五期生 医師） 聞き手 木村 來生

—今日は何で来られたんですか？

車で来たんですけど、近くに住んで、仕事もそんなに遠い所じゃなくって、滋賀県ってだいたい湖西と湖南と湖北と湖東と四箇所に分かれると思うんですけど、ずっと僕、湖南地域から動いてなくて。

—そうなんですね。

立命館守山の中学と高校出て、僕は滋賀医大に行ってそのまま淡海医療センターっていう今の職場のところで仕事したり、途中で大学行ったり、仕事で大学に1年間行ったりしたけど、概ねこの地域でほとんど一生過ごしてるって言う。

—なんか立命館守山中学校に入ろうと思ったきっかけとか。

きっかけ？うーんとね、この学校は六年間行けるし、高校入試ない中でいろんなこう、何やろう、その時はすごくサッカー頑張ってる、サッカーとかしながら、ゆっくりのびのび過ごせるかなと思って。ゆっくりはないけど、のびのび六年間、同じ友達とかと一緒にまあ、学校に行けるのはいいかなと思って。この中学校にしかなくと思って中学校から入ったんですけど。

—ご両親は、海外で何のお仕事を？どんな感じで過ごしたんですか？

両親は大学の先生やったんですけど。研究みたいな感じで、向こうに

行ってる。それで付いて行っただという感じです。

当時は、スマホとかもなかったし、向こう人たちの中に入り込む機会も多かったから、サッカーとかしたりとか、友達と一緒に遊んだりして英語とかは上達したかな。そう言う意味では現地の生活に入れるって言うのはよかったかなと思ってます。（立命館守山の）中学まだ海外のホームステイありますか？

—ありますね。

高校の海外研修がベトナムやったんですけど、ぼくの世代。フロンティアサイエンスコースはベトナムやって。渡航前から不安というよりはどちらかというと凄じな感じが大きかったかな。向こうに行って生活とかどうしようってなることが多いと思うんですけど、何か結構僕は割と海外での生活楽しみにしていい。

—ごめん、早口になってないです？大丈夫？

—大丈夫です。

—いつもお年寄りを対象に喋ることが多くって。

—そうなんですね。

仕事のね。やっぱり早口になることが多いので。消化器内科が専門なんです。消化器内科って、胃だとか腸、肝臓、脾臓、ちよつと脾臓も診る。若い人ってあんまり消化管や大腸がんとかってならないので、基本的には喋る人って平均年齢六十歳ちよつと超えた、六十から七十歳くらいの人が多くて、喋ると速すぎて聞き取れへんって顔されるのがことが多くって。（若年層の人と）パーと喋って普通に会話が成り立つのなんか新鮮で懐かしくていいなあって思いますね。

—（診療の現場では）ゆっくり大きい声でしゃべったりするんですか？
—そうやね、やっぱり若い子と年齢を重ねている方とは、同じ言葉は使

えないし。

年長者には、やっぱり丁寧な喋り方にしたりとか、逆にわかりやすく、子供言葉で喋るっていうと失礼になるけど、そういう簡単な言葉で話す方が伝わりやすくなる。

—そうなんですね。

「痛い」とか、「疼痛」がとか専門家だったらいのだけでも。疼痛じゃなくて、「どこ」がギューっとしますか？」の方が伝わりやすかったり。すごく歳いった人（高齢者）に「疼痛がどこありますか？」って質問しても、「うーん？」って顔されるけど、「どこが、ギュー（痛い）としますか？」って尋ねた方が、ここって言うてくれたりして、患者様との意思疎通ができることが多いです。

—あー、なるほど納得しました。

年齢層に合わせながらいろんな言葉を使い分けたりしながら仕事することが多いですね。喋るスピードもそうだし。さまざまな話し方接し方を患者様によって考えながら対応するから楽しい仕事ですよ。

—高校は、勉強が一番大変でしたか？部活とかよりも？

高校1年生が終わって医学部目指してたらみんなそれくらいから勉強する。勉強が高校2年生くらいから始まるとそれが一番大変でしたね。

まあ、今もあると思うけど、進学クラスやったら課外授業みたいな感じで終わってからちよつと勉強して。で、その後塾にいったって、ほんとに日またぐかまたがへんかに帰ってきて。勉強やろう、って言いながら友達と集まってぺちやくちや喋ったり。やっぱりコミュニケーションしながら勉強したのって、忘れないんですよ。エピソード記憶で残る。あいつがあんなこと言ってたなあ。めっちゃしようもないこと言ってたなあが、結局最後自分の力になったりして。決して机と向き合うことだけが

勉強じゃない。課外授業だったり、英語の授業やったりとか討論みたいな授業とかデイベートみたいな授業もあったりすると思うんだけどその中に意外と勉強で役立つことっていっぱいあるなあって受験終わった時は思いましたね。

—勉強は、元から好きでしたか？

別に全然したく無い。できたらしたく無い（笑）。この部屋にしたい人は誰もいないですよ。

（取材陣を含め先生方皆さん大爆笑）

—いいんですか？もうなんか、お医者さんになったというだけで、勉強好きやったんかなってイメージがあつて。

全然そんなことはない。できる事なら、もちろんしたくないけど。

—毎日、どのくらい勉強してたんですか？

休みの日は10時間以上は絶対してた。春休みや夏休みとかは特にな。長期休みは死ぬほど宿題多くない？この学校。

—うん、めっちゃ多い。

めっちゃ多いよな。何じゃこれ？って思いながらやってたよ僕も。その宿題やるだけでも一日、五から六時間かかるじゃないですか？ほんとで、塾とか行ったら、塾の宿題とかもあるし。予習とかいろいろ準備で込み込みで八時間くらいはかかる。でも、欠かさず、ゲームとかコンピュター触ったりしてましたね。周りにバレないように隠れて。こそつとやってたりしましたね。

—（医師になった）今もゲームしたりしますか？立守時代の友人との交流はありますか？

ゲームはします。友人関係は当時のフロンティアの子と一緒に今でも遊んだりしていますよ。今、僕がいる病院（淡海医療センター）って立

命館守山出身の先生3人いるんですよ。浪人してた一人と僕の後にフロンティアサイエンス卒業生が研修医の同期で、高校の同級生です。現在も、ご飯と一緒に食べに行ったりして学生時代と変わらず仲良くしています。

―取材を受けてくださったのはどうしてですか？

この話を受けた時も、自慢話になるのが嫌やなって思ったんですけど、偉そうな話になるじゃないですか。そうならないように願ってはいるんですが、自分はお医者さんとして立命館守山の高校生と関わる機会が全然なくて。僕が通った道（経緯）、立命館中等学校時代にこうしたよ、医学部はこうだったよって話をして、まあそういうのが、この学校がいいなっと思ってる生徒さんに少しでも伝わって、同じ道がいいなっと思っ来てくれるんやったら、それはそれで嬉しいことやなっと思ってお話をお受けしたっていうのがあるんです。

―ありがとうございます。（私も将来の目標にしている方とお会いできて幸いです）

消化器内科に入ってくれたり、同窓生、そんな人が増えたらいいな。滋賀県で働いてくれるお医者さんが増えるといいなあとは思いますがどね。

―人手不足ありますか？

人手不足、そうですね、科にもよるけど。やっぱり全般的には足りないのかなと思いますね、足りてると思っことはあまりないですね。どこも人が足りない。フライトドクターなりたいて書いてあつたけど、救急とかも全然人足りてない。お医者さんの数としては全国的に確保されてるんだらうけど、やっぱり都市部に行く人が多いんですね。それこそ、大阪に行きたいとか。東京に行きたいとか。最近、「直美」と

か問題になってる。（美容医療の希望者が、通常は経験する外科等を経由せずに）直接、美容外科に行きたいってことなんやけど。問題って言うほど問題ではないんだらうけど。その人の選択だし、そう言うのが言われている中で、あんまりこの辺に滋賀県に残ってやりますっていう人がなかなか出づらくって。ここの出身の人やこのエリア出身の人やったら大学行って自分の地元に戻ってくる人が多いからなって、なってくれたら嬉しいなっと思うけどね。

―本郷さんが滋賀に残って病院で働くって、何かきっかけあったんですか？都市部に行かずに、地方に残るの選択をしたのはどうしてですか？そうですね、明確に理由があつた訳じゃないけど、大学の時とかに講演会とかあつたりとかで、他の先生のお話を聞く機会があつて東京や大阪に出た、見に行ったこと何回もあるんやけど、めちゃくちゃキラキラして見える。僕が、かねがね親によく言われることが『地に足をつけて生きなさい』って言われている。（その言葉が強く心に刻まれてる様子）

ずっとお世話になっ滋賀県で過ごして、別にキラキラした大阪や東京の生活で、僕らが田舎もんやから、美容に進んだ先生とかすごく楽しそうに見えるけど、すごい高級車とか乗り回して羨ましいともちろん思うんだけど、自分がやりたいことってそうじゃなくって、もちろん新しい機会に触れるのが自分のモチベーションにはなるけど、それと同じくらい自分と関わりのある人たちの治療をしたい。やっぱり、守山やつたら、守山の人。草津で仕事してたら草津の人とかで元々この出身でというとすごく嬉しそうな表情してくれはるんですよ。そういうのが嬉しくて滋賀県で診療しててよかつたなっと思っいて。答えになっていかわからないけど、滋賀県でやってて良いモチベーションになってるところですかね。やっぱり、自分がお世話になつた人とか、先生の知

り合いか。

―おー。すごい感動的な話ですね。

リツモリのサッカー部の吉田先生にすぐお世話になっていて、他の高校のサッカーの顧問の先生とかが病気になるって病院に来はって、高校のサッカーの話で盛り上がって。そんなん（こ）縁のある方の治療できること）やっているとすごい僕楽しいなって思う。知り合いの知り合いで僕が力になれるんやったら楽しいと思うけど。東京とか大都市で実力を磨きたいのもいい。機会があればそう言うところに出るかもしれないけど、今は滋賀県で仕事していてよかったなと思う。そんな感じかな。

あなたはどこで、何やりたいとかある？

―コードブルー（医療ドラマ）って知ってますか？

あー、コードブルー。面白いね。

―あのドラマを小学生の時に観て。ドクターヘリの見学会に行って、私もこんな風になりたいなって思ってた。私が語る方になってすみません（笑）。

どうぞどんどん語ってください（笑）。

―ドクターヘリって助けてほしい人のために医師が行く方じゃないですか、それにすごいカッコいいなって憧れていて。将来私も、大阪とか都心部ではなく、ここ滋賀に残りたいっていうか地域とのつながりを持つておきたいっていうか地元に残りたい夢があります。

是非、栗東に済生会っていう大きな病院があるんで、宣伝する訳じゃないけど。僕は、高い所がダメで。高所恐怖症でヘリには乗れなかったけど、ドクターカーは何回か乗ったことがあって。

―へえ。すごい。

救急車の代わりに、お医者さんが現場に直接行って治療始めるって言

うのもあるんですよ。救急で研修医してた頃にドクターカーに何回も乗ったことがあるんやけど。楽しいって言い方したらあれ（患者さんに悪い印象与えてしまう）やけど。あのドラマのような大事故はない。コードブルーみたいに駅が崩落しましたってのはないから。そこまで大きな事故とかはないけど。

―ドクターカーってどう言う時に出勤するのか決まってるんですか？

そうですね、心臓系の病気があったら出勤すること多いかな。僕の働いている淡海医療センターとかは、心臓系の病気があったらよく出勤してるイメージある。あと、救急車との距離とかもあるかな。救急隊の時間がかかる距離とか病院から近かったら出たりとか。救急隊の人が運ぶより先に医師に来てもらった方がいいと思ったりよくある感じでしたね。

あれ（ドクターカー）、めっちゃ酔うんですよ。救急車後ろ窓がないんですよ。ワンボックスカーで、車種名出したらあかんかもしれないけどハイエースの改造車が県内走って後ろ窓がなくて席も患者さんがベッドで入ってくるから横向きなんです。ドクターカーを走らせると、前が全然見えない。めっちゃ狭いところで、めっちゃくちや揺れるから気持ち悪くなるんですね。車内事故防ぐためにヘルメット被るからめっちゃくちや暑い。暑いし、気持ち悪いし、結構大変だった。

―ええー、結構大変ですね。

夏とか、やばかったもん。汗だつくだけ。

空調効いてるけど、患者さん倒れてるの大体は外。外やのに防護服着て、ヘルメットつけて汗だくで。『早くシャワー浴びたい』ってなりましたけどね。救急での経験も良い体験になったと思いますね。

―それは研修医の時ですか？研修医は、全部の診療科回るんですか？

回るよ、選べるけど。2年間で全部を回るのは難しい。いくつかは

選んで回って。自分が関わると思う科を中心に歩く人もいるし満遍なく色々回る人のいる。

僕の場合は、最初は麻酔科とか整形外科とかに興味あって、スポーツしてたから、スポーツ整形とかにも興味あって。整形外科とかもたくさん回ったし。

色々回って自分が進む科を決められる。お医者さんのいいところかもしれないけどね。免許さえあれば、自分に合った仕事があると思います。中には人と関わりたくない人もいて。

—あ、そうなんです。

患者さんとあまり喋りたくないとか、喋るのが苦手っていう人だったらそう言う仕事もあるし、病理とか。病理が全部人と喋るのが苦手って訳じゃないけど。僕の友達で患者さんと話すのがあまり得意じゃないから緊張しちゃって病理に進むっていう人もいたし。病理って、ずっと細胞見て、これが癌ですよって診断する人。人それぞれ、合った仕事があるし、実際に働いてみてフライトドクターになりたい！　っていう夢素晴らしいと思うし、ぜひそれ目指してほしいと思うけど、実際にやってみたらなんかフライトドクターよりこっちの方がおもしろいって実際あるんですね。例えば、この手術めっちゃ楽しいとかね。実際手術なんかしてみなわからへんやん。

—手術って、みんなするんですか？

うん、するよ。外科を回るのは必須なので。救急医になろうと思ったら、縫ったり貼ったり絶対しなあかんから。すぐ慣れる。慣れるから大丈夫。君も大丈夫だよ、きっと。

—その科の中でも手術する人と診断する人って別なんですか？

基本的に内科は診断とか、お薬の投薬治療がベースであって、外科は

手術。なんとか外科っていうところは手術がメイン。救急科はどっちもちょこちょこやったりする。基本的には、大まかにはその二つに分かれるかな。それ以外の科は、麻酔科、病理科、放射線科、リハビリ科かな。手術するのもいいと思いますよ。楽しいし。

—本郷先生もしたことあるんですか？

もちろん。全部自分でできる訳じゃないけど。いざその時になったら、やるしかないんで、できるようになる。自分一人でやる訳じゃない。もちろん、上級医の先生がいて指導してもらいながらちよとずつやっていて、ちゃんとある程度のことはできるようになると思っていますよ。そういうの（手術）は、気持ち悪いのはあるにはあると思いますよ。うん、患者さんによってはすごいあの…。グロい話でいいのかな？　好きに喋っていいですか？　ウジ虫が湧いててすごいのか？

—そんな、あるんですか？

あるある。あのー、こけて動けなくなると虫が湧いたりするので。まあ、そういうのをみなあかんとかは、嫌でもあります。

（二人で笑う）

こんなグロい話ばかりしてもあれやし、素敵な話を話そう。大変やった人ほど、治った時はすごいありがとうってくれるので嬉しいですよ。差し入れてーって言っている訳じゃないけど、「先生ありがとう」って、お米やお芋さん、自分のところで作ったお酒を持ってきてくれる人もいてすごい嬉しいです。おやつとかも持ってきてくれるし、もらって嬉しいとかじゃなくて、自分がしてあげたことで、そういう感謝を伝えてくれたらなんか嬉しくない？

—はい、とっても。実際にしてもらったら嬉しいと思います。

それは他の仕事ではないしなあ。医者の話ばかりして高校の話全然

してへんな。立命館守山に行っていて悪かったことは先輩の経験談を聞く機会がなかったことやったなと思って。僕の時先輩がいなかったの
で医者になったのは一人目だったはずやから。

—え？そんなんですか？

多分。他にいんのかな？聞いたことないけど。僕が6期生で、中高一貫そもそも僕が初めてやし、フロンティアサイエンスも僕が1期生。基本的にフロンティアから出て医者になった人がいなくて卒業生の話も聞いたことなく。自分が進路決定した頃は卒業生におらんから、話し聞く人おらんって、保護者の人やったら多いかもしれんけど・・・卒業生でそんな話をする人いなかったから。医学部に行くのを決めたのはいいものの、いいのか悪いのかようわからんって思ってたね。現在は進路のお話を先輩に聞く機会とがあります？

—最近、各自でオープンキャンパス行ったり、たまに誰かのお父さんお母さんで活躍している人がキャリアアップ講演会でたまに来られます。

できるようになったんですね。最初全然なくって。高校三年間でできたことないし。そういうの聞けるとモチベーション上がるしよかったんじゃないかな。今、キャリアアップ講演できたんやったら、すごいいいんじゃないかな。そういうのはたくさんあった方がいいよね。

ドクターヘリも乗ってという先生、今は大学で救急やってはるけど。楽しそう。活力あるし、そういうのも話聞けるといいのかもしれないね。

—そうですね。

本日はお時間をいただきありがとうございました。今後よろしくお願いたします。

【感想】

今回の聞き書きを通じて、私の将来の夢である医師の方に直接お会いしてお話を伺えたことは大変貴重な経験になりました。今までの生活の中で、医師の方と接するのは、私が外来受診に行った時だけでしたが、実際に仕事での目標や気をつけておられること、やりがいをお聞きすることができました。患者様に対する気遣いや治療後に感謝の意を伝えて頂けることを励みにしておられ大変共感致しました。医師同士での関わり大切さや仲間と切磋琢磨し、自己研鑽する力になることを学びました。これは、私の受験勉強とも重なるところがあります。授業や課題活動、受験勉強は苦しく感じることも多くありますが、立命館守山高校の先輩が臨床の現場で活躍されていることをお聞きして、将来の自分像が具体的に描けてきつたかと思いました。研修医時代または臨床医になってからも自分に合った専門分野を探すための選択肢があることも教えていただけて感謝しております。試行錯誤して、悩みながら日々受験勉強していますが、今回のお話が私にとってアドバイスになったと思います。今は、辛い勉強ですが友人や周りの人達に支えられて頑張ることができています。お忙しい中、私たち立命館守山高校の後輩達のためにお時間ちょうだいしてありがとうございました。ゆかりのある土地に恩返しをしたいとの意思も共通点があり、これからもご指導いただければ幸いです。将来、フライトドクターになった私とまたお会いして頂けると嬉しいです。私もいつか後輩たちのためにキャリアアップ授業や今回のような行事に協力できる場面があればと思います。ありがとうございます。（次ページへ）



右：聞き手 木村 來生
左：語り手 本郷 真功さん